内宮の女官ハくまゝゐゐ両藍さくら色のゐゐや冊敷ゐてつくり成しゐ寶のかゝゝあまゝ敷ゑまいらせらゑ諸侯の贈品もまゝゐゐ或ハ大和歌詩文ゑもて賀王一ゑもあり て文車ゐみちゐゝちたり御館のうちはゐゝゝより諸公の贈品とだえゐく五百重波ゑうちよせゑゐごとゝ處せゑみるゐまゐゆゝ他の國ゐゝ寶の山といふもいかでの是ゐまはる事やハゐらんかゝゑ御さのゑに仕一奉りゝ臣庶はげゐ天縁なゐゝ　諸公諸君より賀筵に寄贈せらゑゝ和歌及び詩韻を少く左方よゝるゑ其餘ハ　尊齢八十の初度ゑ節の詩歌と共ゑ合て訂裝一別冊に備ふ

諸公詩歌

有栖川幟仁親王

花はゐむハゐ世の春ゑ椿よゐい重ねて盛見ゐら嘗

飛鳥井擢大納言雅光卿

老人のゐふゐに馴ゝ言吹ゑゐゐをやつげん鶴の齢か

石井前中納言行宣卿

八十ゐまりゆゑく楽む齡ゐハ移百年も數つゐるら嘗

從三位宰相齊莊卿　田安右衛門督様

月花ゑゐゐゐゝめていくゐゐ年友とゑゐるき松のけゑ宿

從三位中將齊位卿　一橋民部卿様

百年はたゝやわとをく成ぬゝ今よゝ千代秋松かゆえあん

源定永　松平越中守様

八十餘り八年ゝ千代の蔭かゝて君乃さゝの行末も遠ゝ

源康任　松平周防守様

繁栄く蓋も八千代の岩根松いとゝ色と出ゝ君の齢は

源定和　松平近江守様

位ゆゑあふゝとゝ言き齢かゝてなを行末社遠に出ゝ

源忠雅　牧野備前守様

今年よりかをゝ初つゝ椿八千代乃春を君をゝぬゝき

藤原忠真　大久保加賀守様

君の波ゝとゝ見つゝ行さゝま沼津をゝかゝ千代君の齢

源[redacted]　松平寧六郎様中守様庶二男

行末を久ゝ千代君を安あれゝ千代秋鳴ふる声ゝゝ社変

滋野幸賀　真田伊豆守様

八十餘り余めゝかきを乗社程も千年をかゝて祝をん

滋野幸榮　真田豊後守様

色かゝ紅岩盤の松ゝ千代盤て君はゝゝく立蔭ゝ色き

藤原豊熙　松平對馬守様

壽乃世にをを義を千の色よゝ社松のをさゝ見ゝゝむ此君

紀正衡　堀田左京亮様

君の波寄もゝ千里よ見ゆる沖つ潟根ゝ社集の河きゝの

源意正　田沼玄蕃頭様

ゆかいつぬ松かけ志免く焼亀も常行君にあえぬつきず

藤原氏正　戸田伊賀守様

葉ゆ見よもゝ見いて君松のわいせぬ千代君集を久しき

平胤統　遠藤但馬守様

君の浦松いくゆゆかけ社浦君松の言葉了春を数いむ

平正令　戸澤能登守様

はゆ恵の浦き汀よもむ亀も松乃この齢を此君了也

つ形とよいて天かをて言ゆ伝城らけまして常

盤の松乃とゝ氏とゝよる体の縁君いろか一ぬよの

うきふ〳〵ハ蓋ゆとゝを志ゆ〳〵めされを自よりに

幸のゝ多く松を〳〵つゝ今年社春はゆつさ弓や

をち社上ゆハつと〳〵はゝらせゆ寿成松き

かゝら云の葉よゆ代冥代とおきくまう行

幾代をゝ君といを波〳〵踏亀社ゆ年成ゆ新君の齢を

月も日ゆ仏のとかゝゆ千代ゆ代冥せぬ君ゆみかと照さむ

藤原隆德　九鬼丹後守様

らゝくと霞める時を了咲花の百ゆ千君を栄へ寿新葉

藤原泰幹 加藤遠江守桜

末遠き君の齢ぞよわふらしこのうけね空社皆苔もろ妻

源乗寛 松平和泉守桜

きせしれ寿ある波もはつま潟遠くきゑ代社松の齢は

源忠邦 水野越前守桜

伝山みちたゑ〳〵とゑとりつ老乃はこの沙末そはるけき

源里顯 柳澤信濃守桜

今年より里ゑの松原末遠くいく十かつりの岩も祝見有

振々麟趾集高臺共唱南山薦壽杯更見九天儛鶴舞千秋知

是不群才

藤原隆國 九鬼長門守桜

ゑせ〳〵ゑふゆゆもちよに君ゝそのゑ名も常乃ゝ〳〵ゑ末ねは

新落高阡々上樓登臨亦富數帆舟悠々壽域通南極沛々恩

波受細流松栢森然連萬歳獸禽於牧唱千秋建尊全備光瓊

殿寰宇頌聲何日休

源保興 松平造酒正桜

南山佳氣繞瓊筵白鶴和鳴翔九天長契遐齢千歳壽知君此

處引群僊

紀正民 堀田豊前守桜

壬辰奉日榮翁君開八十八壽筵因白鶴歌奉賀

娟々白鶴舞層樓興比孤山境自幽觀侶夕馴蒼樹下將雛朝
戲緑地頭籠中偶縱雲間樂背上應期天外遊仙管和來清唳
好瓊觴勸醉幾千秋

公族

齊宣公

皓髦の君子引きてよりいく萬代の齢を為ら巻

久通君

百尺青松千古同天然壽色滿花宮朝陽相映帶佳氣養老長
生樂不窮

齊溥君

よもき山ゝ池乃亀も萬代の君の齢成かをつくやみん
春日陪高宴畫堂喜氣催共歌九如曲同獻萬年杯松老翠低
地花妍錦擁臺仙蹤何更問壽域此中開

久命君

龜齢鶴筭德行敦萊舞相催米壽春不老門前集禽閣瑞雲和
氣屬佳辰

孝姫君

君ゝ齡蓬の山ゝも海ゝも動きふるいたる亀ほし

親姫君

第代と祝ふもいかに多くちねの乃志の榮者限なきなれと

叔姫君

五代第形うれたなと度多くちねの志を喜ふ瀧川の水

貢姫君

とゝまたかけさのえり志松乃五代を壽て仕る社毛衣

操姫君

常盤ふる松よ契りて第代もなほ榮ゆく君のこゝろふき

隨姫君

竹君社齡志ふゝれて十か〻つ志をやゝらむ度乃松う枝

聰姫君

十通社花をたふよりも松う枝う枝に契て幾世君も〻為らむ

閑姫君

幾年もいや榮えゆく松う枝よ君の齡乃五世も志もれる

齊彬公

常盤ふる松乃枝契りに世志乃八十八と七社事尼祝ゝむ

齊敏君

彩ゝるく恵ゝもむ治なけ君はやを第代も榮つ社かえむ

英姫君

五代第報濱の志ゆ祝ゝるめゝゆて齡ゝさねむ志社な為

順姫君

落髪もゐ世まで代まを君に為つてまいらかつて強む

祝姫君

八十餘りゆとせ社坂を越て行り末遠く幸やよとつむ

季子　松平阿波守様ゟ室

老楽社栄いゆまと齢をはなるいくゐ代と祈ふてゐき

箏子　松平越後守様ゟ室

栄満せ君の齢ん〻ゐ年〻ゐさく桃をため〻ふも〻ゐ

松平越中守様ゟ母

祈ふをゐ祈て〻ゐ君百年〻迄つく老社束はかき社

戸澤上総介様ゟ後室

今まゝの老乃みさかゝを梦にてのほ社齢や雪社上満ゐ

内藤紀伊守様ゟ後室

から衣ゐちゐもゆを社老楽のゐ世城重ねむ神君英様

松平備前守様ゟ室

鶴君羽を松の葉〻さ〻〻取を〻つて君ゝ齢乃ゆ代を久〻社

純子　松平美濃守様ゟ室

八十餘いとゆ社老のゐと〻より業代ゐ為社君ゐ行束

綱子　松平越中守ゟ室

八十路やそせもいき花はらも枝末ながき蔭ををみん

いも子　戸澤大和守様ゟ室

栄ゆくかきりいわゝ未遠き君を面のしむ君乃齢を

和歌子　真田伊豆守様ゟ室

古年よ世幾十迄ゝ乃妻の名我君本社松花蔭ふみを見

松平土佐守様ゟ室

君栄を白ゝ守迄ゝ幾百妻かみりわらゝ和君ゝ栄は

君和歌ゝ葉よ月葉乃好のわるゝ社花も君栄の女

九鬼丹後守様ゟ室

八十路八年社妻の今年よりゝ代を栄えむ君をこそ

堀大和守様ゟ室

かきりなき花君社ゝ坂我幾百ゝ安らゝ祝む君をゝ君

典子　大久保加賀守様ゟ室

限れき大海原を花流ゝてゝ千ゝ和も安社君の波かれ

牧野備前守様ゟ室

八十路八妻社妻のこそゝよりゝ幾世ゝ君を祝む

のふ子

八十路孫世乃妻社花よりゝ百世無君の齢いく世を

いて子　戸澤大和守様ゟ女

皆亀社多月齢の妻よりゝ参世無君ゝみ代を久ゝき

まつ子 諏訪伊勢守様ハ室

篠まくらかつもとらむ年経ても君せぬ門苔おの糸

錦子 加藤遠江守様ハ室

言ぬ乃わすれよふの秋萩くつハ代かきて君を栄つむ

敏書 第四十五條

同月二十五日賀筵を収む　公游息の御側ふ侍從ハ臣ハ

ヨて　手書を祢き侍りけふ　公敏ふ香硯を呼ハしめふ

封内ハ神社ふ呈王ふ扁額の字を製まる躬ゑら古人の壽

詩を繙觀して行草諸體ハ字をつくり王ふ事凡七百張鐵

體雲煙飛動の勢廻ふ凡書ふことなり千秋の壽色墨痕に

顯ゑたり其壯儼拜して識べし而これを老臣内史及び侍

從の臣庶ゑ　賜ハふ僉仰戴して家寶の尤ふ備え奉ると

奏しげる扁額ハ　手書ハ臣槃ふたハせそ影寫雙鈎をと

らしめ貞版ふ忍らせげハ

神佛一扁額ハ奉し王ふ　第四十六條

五月朔日　公一食頃ハ間ふ聖語ハ採索し王ひ扁額の字

十有餘枚を書王一り其毫ハふるひ王ふ道宕ハ勢ハ小蛇

の草を行ふ如し　臣槃にたハせそ雙鈎ふ摹しめ飛彈山の

真木の板ふちりばめ金漆を飾り　封内ハ神殿佛宇ふ奉

建し王ふ琳宮梵舍いよ〳〵益光耀ハ放つべし

天明年来　御登　城第四十七條追加

文政二年巳卯歳六月七日に登　城同五年壬午十月十三日吹上　御庭　に拜見同六年癸未歳三月廿八日一橋屋形へ

御臺様　御立寄ふ付　に出同七年甲申歳三月廿七日右同文政九年丙戌歳四月廿三日右同　に出被為在ひゆう被　仰出ふ〳〵ども　に痛ふく　に斷被　仰上　に出無之輪臺日録　に謁の節毎ふ

御懇儀ゝ　御詞　に仰戴ゝよ〳〵は竊ふ伺ひ奉きど日録にい其條を載侍らゑハはたゝにしるさゞ

強記第四十八條

天保三年壬辰十二月十六日立春　公今茲に齢八十有九ふ〳〵て強記或は壯年ゝ人ゝ勝れて詩歌及び諸公よりの消息文ゝ讀むふに眼鏡を用ゐたまふ事ふ〳〵ゝき五内健實ゝ志る〳〵顯ゐふ　公子且侍從の士女常ふ仰ぐ〳〵拜〳〵ける所ゝりかゝ彰めてゝたゝさ〳〵ゝ此事ハ次の冊ふ〳〵るそゑ〳〵